

実施時間	令和2年10月頃	対象学年	第1・2学年
科目名	地理総合	単元名	大項目B「国際理解と国際協力」 中項目(2)「地球的課題と国際協力」に該当する単元
達成が期待されるSDGs			

【単元計画について】

本単元は中項目(1)「生活文化の多様性と国際理解」を踏まえることが肝要となるため、オリエンテーションとして第0時を設定した。また、評価の観点、○＝記録に残す評価、●＝指導に生かす評価である。

時	「学習項目」 学習内容	学習活動 〈 〉＝アクティビティ名（BS＝ブレインストーミングのこと）	評価の観点		
			知	思	態
0	「オリエンテーション」 国際社会の課題と自分とのつながりを考察し、関心を高める。	①協働学習のルールを肯定的な言葉で考えその意義を共有する。 ②開発途上国の人口、場所を地図で確認する。〈クイズ〉 ③「子供兵士」の写真をみて自分との関わりを考える。〈フォトランゲージ〉 ④スマホの生産工程を考察し「物のグローバル化」を理解する。〈カードワーク〉 ⑤外国人労働者の実態から「人のグローバル化」を理解する。〈看図アプローチ〉 ⑥上記④⑤より、国際社会の課題を見つけ自分事化することの大切さを考える。 ⑦単元を貫く問い（FQ）「国際協力で大切なことは何か」を設定する。	●	●	●
1	「沖縄×SDGs」 本県の国際協力の展開方向を考察する。	①事前アンケート「国際協力に対するイメージ」等を共有する。 ②0時の振り返りや①から本時の問い（MQ）を設定する。 【問い】「沖縄県の国際協力はどのように進められているのだろうか」 ③SDGsの成立背景や17ゴールについて理解する。〈カードワーク〉 ④日本や沖縄県のSDGsへの取り組みや現状を理解する。 ⑤「沖縄21世紀ビジョン」について理解する。〈カードワーク〉 ⑥ビジョンIVに注目し、SDGsとの関連を考える。〈カードワーク〉 ⑦本時の問い（MQ）についてリフレクションシートを記入する。	●	●	●
2	「沖縄×平和」 もしも学芸員だったらどのような平和博物館を創るか考察し、その態度を身に付けようとする。	①前時の振り返り（ビジョンIV×SDGs）から本時の問い（MQ）を設定する。 【問い】「沖縄の強みを生かす国際協力とはどのようなものか」 ②「平和教育」と聞いてイメージすることを共有する。〈BS〉 ③平和博物館づくりを要請してきたC国のできごと（シナリオ）を読む。 ④C国にどのような平和博物館が作れるかアイデアを出し共有する。〈BS〉 ⑤実際の支援の様子を写真から考察する。〈フォトランゲージ〉 ⑥現在のC国の写真を見ながらC国がどこか考察する。 ⑦なぜこのような支援が行えたか世界中の平和博物館数を踏まえて考察する。 ⑧本時の問い（MQ）についてリフレクションシートを記入する。	●	●	○
3	「沖縄×環境」 もしも水道技術者だったらどのように支援を行うか考察し、その態度を身に付けようとする。	①前時のリフレクションシートに記載された新たな問いを本時の問い（MQ）として設定する（この時間の本時の問いはFQと同じである）。 【問い】「国際協力で大切なことは何か」 ②宮古島の水変遷の歴史を考察する。〈フォトランゲージ〉 ③生物浄化法（緩速濾過法）と急速濾過法を知る。〈クイズ〉 ④S国の人の立場になってS国の水事情を考察する。〈ロールプレイ〉 ⑤S国にどのような水環境支援ができるかを考察する。〈BS〉 ⑥S国における支援と関連するSDGsを考察し選ぶ。 ⑦単元を貫く問い（EQ）についてリフレクションシートを記入し全体共有する。	●	●	○

【使用した教材等について】

この単元計画を基に、次頁には、第2時「沖縄×平和」の実践を紹介する。なお、第2時はJICA 沖縄のWebページ（[ワークショップ教材 | JICA 沖縄 - JICA](#)）においても紹介しており、使用した教材・資料等についてもダウンロードできる。ぜひ、本サイトへアクセスし本実践を参照・活用していただきたい。

【第2時】 沖縄×平和

問い	「沖縄の強みを生かす国際協力とは？」 ～もしも学芸員だったら～
目標	沖縄県内の学芸員という立場に立って、海外における平和博物館づくりを協働しながら考察・構想することで、平素の「平和教育」が沖縄の強みであり、国際協力の一つになるということへの関心を高め、平和な社会を創る担い手として何ができるかということを中心に追究する。
留意点	①ブレインストーミング（BS）の留意事項（質より量、付箋紙一枚に1事項、大きな字）を全体で確認する。 ②フォトランゲージのやり方を全体で確認したり、生徒の実態に応じて配布する写真の枚数を増減したりする。 ③アクティビティに慣れていない場合は、他校の実践の様子をスライドで提示しイメージを持たせる。

<p>1. 前時の振り返りと本時の見通し</p> <p>2020年度 ○○高等学校2学年</p> <p>【地理B 特設授業】</p> <h2 style="text-align: center;">沖縄×平和</h2> <p style="text-align: center;">もしもあなたが「学芸員」だったら？</p> <p>前時では「平和教育」の復習を行い、本時は「沖縄の強みを生かした国際協力とは？」という問いに迫っていきます。</p>	<p>2. 「平和教育」と言えば…？</p>	<p>3. 平和博物館の学芸員になろう</p> <p>「平和教育」は、何のため？</p> <p>くり返さないよ!! 忘れないように!! 未来につなげるため!</p> <p>あなたは、R国の平和資料館に勤務する学芸員です。ある日、C国から「C国でも平和博物館を作りたいのでいろいろ教えていただきたい」というメールが届きました。どうやらC国では近年まで「内戦」があったようです。</p>
---	------------------------	---

前時で使用したスライドを提示して振り返った後、本時の学習への見通しを持たせる。「平和教育」と聞いてイメージすることを付箋紙にBSさせ、個人→グループ→全体で可視化し共有する。「平和教育」は何のため行うと思うか考えさせ共有し全員が平和博物館の学芸員の立場に立つことを確認する。

4. C国の悲劇を知ろう！	5. 本時の問いを確認する	6. C国に平和博物館を創ろう！
---------------	---------------	------------------

<p>C国に起こった「悲劇」とは…</p> <p>C国で起こったこと① C国では1975～79年にかけて、一部の人間による国の中に「頭のいい人」がいると人々の間に階級や格差をもたらす「国をリーダーする我々以外の頭のいい人」はこの国には必要ない! という偏った考えにより、ちよつとでも「頭のいい人」と思われた者は捕まってしまう。</p> <p>C国で起こったこと② と違い、でも運はなりました。</p> <p>C国で起こったこと③ まだたつた人は「頭のいい人」は必要ない! という偏った考えにより、ちよつとでも「頭のいい人」と思われた者は捕まってしまう。</p>	<p>本時の問い</p> <p>どのような国際協力ができるか？</p> <p>あなたが学芸員だったら、内戦があったこのC国に、どのような「平和博物館」をつくるようにアドバイスしますか？</p> <p>①各自で思いつくことを付箋紙に書く ②できるだけたくさんアイディアを! ③字は大きく、単文で書く ④1枚の付箋紙に書く内容は1つだけ! ⑤他の人の意見に便乗してもOK!</p> <p>行ったことのある博物館や図書室を思い出して!</p>	<p>シナリオに独房に入れられたと書いてあったぞ</p>
--	--	------------------------------

C国から平和博物館創りの支援要請があることを伝えC国の「悲劇」を全体で読み合わせして配付する。「沖縄の強み」を生かし、どのような国際協力ができるか、学芸員の立場になって平和博物館を構想させる。C国にどのような平和博物館を創る（何をどう展示するか）BSさせ、共有して新たな視点を見い出させる。

7. 実際の支援の様子を考察	8. この支援ができたのはなぜ？	9. 本時の振り返り
----------------	------------------	------------

<p>実際に虐殺が行われた部屋を再現したのかな？</p>	<p>「沖縄の強み」を生かした国際協力</p> <p>ビジョン特奏集 IV 世界に開かれた交流と共生の島</p> <p>(2) 国際協力・貢献活動の推進 「平和を希求する沖縄の心の発信」へ! ～沖縄・カンボジア～</p> <p>①「平和博物館」協力 (2009年5月～2012年3月) ②「平和文化・創造の博物館づくり協力 (2012年7月～2015年3月)</p> <p>Q1 なぜ、沖縄からこのような支援が行えた? Q2 世界に「平和博物館」はいくつある? Q3 そのうち、いくつ日本にある?</p>	<p>博物館の存在は () な状態にこそ健全な運営がなされる 【学芸員 園原さん】</p>
------------------------------	--	--

実際の博物館創りの様子の写真（2～4枚）を提示し読み取らせ（フォトランゲージ）、C国はどこか確認する。世界の平和博物館の総数等を問いながら、なぜ沖縄からこのような支援ができたと思うか考察させる。実際に支援に携わった方のメッセージを紹介しながら「平和教育」が国際協力にもなることを全体で共有する。

授業後の生徒の記述	○沖縄戦より後にカンボジアでこのような悲劇があったことにとっても驚き、事実と思えなかった。 ○私たちが受けてきた「平和教育」が国際協力に役に立つということを実感することができた。 ○具体的にどんなことをやったのかも知りたくなり、このことをもっと多くの人に伝えたいと思った。
所見	本時のポイントは「学芸員」となり平和博物館を構想させる点にある。多くの生徒が博物館に行った経験があるため、予想以上にその立場に立って構想する姿が見られた。また、C国のできごとを6枚のシートに分散して紹介することで、一つ一つのできごとにスポットを当てながら構想しやすくなるように工夫した。さらに、支援前後の変容が読み取れる写真をセットにして配布することで、実際にどのような支援をしたかを考察できるようにした。授業後アンケートでは全員が「今までの『平和教育』が国際協力に貢献できるということを実感できた」と回答しており、議論を通して解決方法を生み出していく自己効力感が感じられた。

